

FM 携帯型無線電話装置 P5011UJF 取扱説明書

このたびは、FM 携帯型無線電話装置 P5011UJF をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
お買い上げいただきました製品に、万一ご不審な点、お気づきの点などがありましたら、なるべくお早めにお買い上げいただきました販売店または CSR カスタマーサポートへお問い合わせください。

株式会社 CSR
〒252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野5丁目33番4号
当社の最新情報をインターネット上で確認してください。
<http://www.kcsr.co.jp/>

Printed in Japan 2017/08 29BC851013

本機の特徴

- P5011UJF は業務用として開発された FM 携帯型無線電話装置です。
 - シャーシは強度と軽さを重視した、アルミダイキャストによる堅牢構造です。
 - 連続トーンスケルチ (CTCSS) 機能を内蔵しております。
 - IEC 規格の IP57 に準拠した防塵・防浸の保護構造となっております。
 - プログラム機能キーを3つ持っており、必要な機能を各キーに割り当てて使用することが出来ます。
- 設定方法についてはお買い上げになりました販売店にお問い合わせください。

機器の構成

- 付属品
ご使用前に下記の付属品がそろっているか確認してください。
- 無線機本体：P5011UJF (1台)
 - フレキシブルアンテナ：YR99015200 (1本)
 - 取扱説明書：本書 (1冊)
 - 保証書 (1枚)
- オプション
- リチウムイオン電池パック：CBP501LI
 - リチウムイオン電池パック充電器：CG800JA
 - ベルトクリップ：BH800 (樹脂タイプ)、BH801 (金属タイプ)
 - キャリングケース：LC800
 - マイクロホン & スピーカー：MP800JA
- ※ その他のオプションについては、お買い上げになりました販売店にお問い合わせください。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとはいつでも取り出せる場所に保管してください。

絵表示について

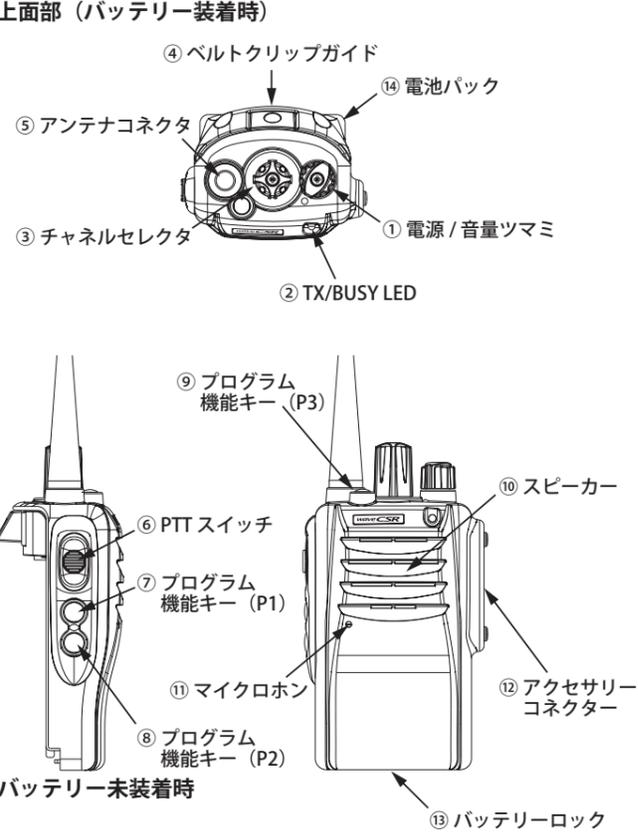
この「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■本文中に使われている絵表示の意味は、次のとおりです。

	禁止		ぬれ手禁止		水ぬれ禁止
	分解禁止		注意		感電注意

各部の名称



	警告
	● 自動車などの運転中は無線機を操作しないでください。安全運転の妨げとなり、事故の原因となります。
	● 当社指定の電池・充電器以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	● 無線機で使用できる電池はオプションのリチウムイオン電池パック CBP501LI です。
	● 無線機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	● 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因となります。
	● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源を切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店または CSR カスタマーサポートに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
	● 万一、無線機の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または CSR カスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
	● 万一、異物が無線機の内部に入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または CSR カスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
	● 濡れた手で無線機に電池を取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。
	● 無線機は IP57 に相当する防塵・防浸構造になっています。水に濡れた場合は、水滴を早めに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。濡れたまま放置すると、性能や寿命を低下させたり、火災・感電・故障の原因となります。
	● 無線機の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
	● 端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。

各部の機能説明

- ① 電源 / 音量ツマミ
このツマミは 1 軸構造となっており、電源の入・切と音量の調整を行います。
右 (時計方向) に回すと電源が入り、さらに右に回すと音量が大きくなります。
左 (反時計方向) に回すと音量が小さくなり、左に回しきると電源が切れます。
- ② TX/BUSY LED
LED 点灯状態により本機の状態は次のようになります。

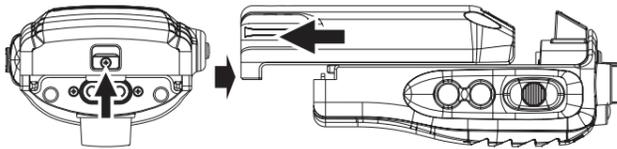
赤色点灯	PTT スイッチを押した状態 (送信状態)
赤色点滅	PTT スイッチを押したときに、電池パックが消耗している状態
緑色点灯	信号を受信している状態 (ビジー状態) またはスケルチがオフ状態 (モニター状態)
橙色点滅	電池パックが消耗して、使用不可の状態
消灯	待ち受け状態

- ③ チャンネルセレクターツマミ
このツマミを回して、使用したいチャンネル (周波数) を選択します。
各チャンネルに設定する周波数につきましては、お買い上げになりました販売店にお問い合わせください。
- ④ ベルトクリップガイド
オプションのベルトクリップを挿入することができます。
- ⑤ アンテナコネクタ (SMA タイプ)
付属のフレキシブルアンテナを接続します。
- ⑥ PTT スイッチ
このスイッチは送信を開始する場合に押します。このスイッチを押している間、TX/BUSY LED は赤色に点灯しています。このスイッチを押して、TX/BUSY LED が赤色に点滅する場合は、電池パックが消耗しています。速やかに電池パックの充電または充電済みの電池パックへ交換してください。
尚、5 分以上送信すると、送信タイムアウトタイマー機能により送信が一時停止します。この場合は一旦 PTT スイッチから手を離してから再度押してください。通話が可能になります。
- ⑦～⑨ プログラム機能キー (P1[※]、P2、P3)
これらのキーは、プログラム機能キーになっています。必要な機能を割り当てて使用できます。
設定できる機能についてはお買い上げになりました販売店にお問い合わせください。
※：プログラム機能キー P1 を 1 秒以上押しと、スケルチの設定を変更できます。変更された状態は、次のようなビーブ音でお知らせします。
ビーブ音 1 回：タイトスケルチ状態 (スケルチの感度が良すぎる場合に使用)
ビーブ音 2 回：スレッシュスケルチとタイトスケルチの中間状態
ビーブ音 3 回：スレッシュスケルチ状態 (弱い信号でもスケルチが開き、受信音が聞こえます) スレッシュスケルチ状態が初期状態です。

	警告
	● 電池は火中へ投げ入れないでください。爆発して火災・やけどなどの原因となります。
	● 電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。
	注意
	● この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	● 無線機は、国内仕様です。国外では使用できませんのでご注意ください。
	● 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、病院などの使用を禁止された場所では、無線機の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
	● お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
	● 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
	● 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
	● 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
	● 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
	お願い
	● 通信は免許状に記載されている目的・通信の相手方および通話事項の範囲で行ってください。
	● 通話はできる限り簡潔に行ってください。1 回の通話時間は 5 分を越えないでください。
	● 使用前には、必ず本機が正常動作するか、電池パックは充電されているか確認してください。本機の故障による事故の責任は負いません。

各部の機能説明(続き)

- ⑩ **スピーカー**
受信音声やビーブ音等が出力されます。
- ⑪ **マイクロホン**
PTTスイッチを押しながら、この部分に向かって会話をします。
- ⑫ **アクセサリコネクター**
オプションのマイクロホン&スピーカーなどを接続する端子です。
- ⑬ **バッテリーロック**
電池パックのロック機構で、本機から電池パックを取り外す時に使用します。
取り外す場合は、本機の電源を切ってから、バッテリーロックレバーを上方(本機前面方向)へスライドします。その状態で電池パックを本機下側へスライドさせることで取り外すことができます。
- ⑭ **電池パック**
本機に DC 電源(+7.4V)を供給します。
オプションの電池パックである CBP501LI は、14 時間以上の運用が可能です。(5%送信/5%受信/90%待ち受け時)



基本操作方法

準備

- ① 本機に電池パックを接続します。
- ② 本機に付属のフレキシブルアンテナを接続します。
- ③ 電源 / 音量ツマミを右(時計方向)に回して本機の電源を入れます。



受信動作

- ① 「準備」の手順を行います。
- ② 電源 / 音量ツマミで音量を設定します。
 - 電源 / 音量ツマミを右(時計方向)に半分くらい回し、他の交信が聞こえる場合は、その音声を使って音量を調節してください。
 - モニター機能をプログラム機能キーに設定しておく、スケルチをオフにできます。モニター機能を使うと、「ザー」という音または音声聞こえますので、この音を参考にして音量調整することが可能です。(モニター機能の設定方法についてはお買い上げになりました販売店にお問い合わせください。)
- ③ チャンネルセレクターツマミを回してチャンネルを選択します。
- ④ 信号を受信した時に、TX/BUSY LED が緑色に点灯し、受信状態(ビジー状態)になったことを示します。スピーカーからは相手の音声聞こえます。

■連続トーンスケルチを設定している場合

- 本機は、連続トーンスケルチ機能を内蔵しております。
(設定方法についてはお買い上げになりました販売店にお問い合わせください。)
- 一致したトーン信号を受信した場合：
TX/BUSY LED が緑色に点灯し、受信状態(ビジー状態)になったことを示します。スピーカーからは相手の音声聞こえます。

基本操作方法(続き)

交信の終わり

- ① 交信が終わり、閉局する場合は、相手局にその旨を連絡し、電源 / 音量ツマミを左(反時計方向)に回し切って電源を切ります。

注意

- アンテナを接続しない状態では、送信しないでください。本機が故障する原因となることがあります。
- 電池パックの充電中は、本機の操作をしないでください。充電器が誤動作をするおそれがあります。
- 電池パックの接続端子部は、きれいにしてお使いください。
- 充電器は専用充電器をご使用ください。他の充電器を使用した場合、電池パックが故障する原因となることがあります。
- 温度が高い場所で、電池パックを保管すると、電池パックの自己放電が多くなります。電池パックは冷暗所で保管してください。

故障とお考えになる前に

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。
下記項目を確認しても正常に動作しない場合は、お買い上げになりました販売店にご相談ください。

- 電源が入らない
 - 電池パックが消耗している。→電池パックを充電してください。
 - 電池パックの接触不良。→電池パックの接続端子を乾いた布で拭いてください。
- 電池パックがすぐ切れる
 - 電池パックの接触不良 →電池パックの接続端子を乾いた布で拭いてください。
 - 電池パックの寿命 →電池パックの寿命は、正常なご使用で約1年です。十分に充電しても、電池パックが早く切れる時は、新しい電池パックにお取り替えください。
- 送信できない
 - 送信時、TX/BUSY LED が赤色に点滅する。→電池パックを充電してください。
- 受信できない
 - 電池パックが消耗している。→電池パックを充電してください。
 - 音が小さくて聞こえない。→音量を調整してください。

- 自局または相手の電波が届かない。
 - アンテナが外れている、または緩んでいる。→アンテナをきちんと取り付けてください。
 - 地下またはトンネル内である。→外に出てから交信してください。
 - オプションのマイクロホン&スピーカー使用。→アクセサリコネクターを乾いた布で拭き、取り付けネジをしっかり締めてください。

CSR カスタマーサポート

0120-973-698

e-mail : wavecsr_support@kcsr.co.jp

ご相談受付時間
9:00 ~ 17:00
(土日祝日を除く)

- 一致しないトーン信号を受信した場合：
TX/BUSY LED が緑色に点灯し、受信状態(ビジー状態)になったことを示します。ただし、スピーカーから相手の音声聞こえません。

送信動作

- ① 「受信動作」の手順①～③までを行います。
- ② 送信する前に、チャンネルが他に使用されていないことを確認します。
- ③ PTT スwitchを押します。
 - 送信中は TX/BUSY LED が赤色に点灯します。
 - 送信出力の変更は、プログラム機能キーの設定により可能になります。(設定方法についてはお買い上げになりました販売店にお問い合わせください。)
- ④ マイクロホンに向かってゆっくり、はっきりと話します。
 - マイクロホンと口は約1～2 cm程度離してください。
- ⑤ 通話が完了したら、PTT スwitchを離します。
 - TX/BUSY LED が消灯し、待ち受け状態になります。

製品仕様

■一般

電波形式	F3E
周波数範囲	450.000MHz ~ 470.000MHz
チャンネルスペース	12.5 kHz
電源部入力電圧	DC 7.4V +/-15%
消費電流 (スタンバイ: バッテリーセーブ除く)	65mA
(RX)	500 mA (Max)
(TX)	2A (at 5W)、0.8A (at 1W)
空中線インピーダンス	50Ω
寸法 (突起物含まず)	100 (H) × 60 (W) × 46 (D) mm
重量	約 350g (付属フレキシブルアンテナ、オプションリチウムイオン電池パック CBP501LI 含む)
動作温度	-20℃ ~ +60℃

■送信部

変調方式	可変リアクタンス周波数変調方式
送信出力	1 ~ 5W (販売店にご相談ください)
最大周波数偏移	±2.5kHz
スプリアス発射強度	≤ -70dBc
送信歪 (1kHz 時)	<5%
周波数偏差	±2.5ppm
FM ハムノイズ	≥ 34dB
占有帯域幅	8.5kHz

■受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数 (1st)	42.95 MHz (Lower)
(2nd)	450 kHz (Lower)
受信感度 (12dB SINAD)	-5dBu
相互変調歪	>70dB
スプリアス妨害	>70dB
受信出力 (8Ω、電源電圧 7.4V 時)	≥ 0.7W
副次的に発する電波の強度	≤ 4nW